

科目名	生 理 学	科目分類	<input type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門教育科目
			<input checked="" type="checkbox"/> 卒業必修 <input checked="" type="checkbox"/> 栄養士必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Physiology	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年
ふりがな	ひろかわただお	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当教員名	廣 川 忠 男	授業形態・修得単位	講義・2単位
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用
授業のテーマ	人体諸器官の生理学的特徴（機能）について理解する。		
授業概要	本講では、主として人体の生理学を扱う。お腹がすけば食事をする。のどが渴けば水を飲む。ごく日常の行動にも、体内においては情報の伝達と認知など多様な生理的機構が関係している。生理学では、ヒトの体内における生命現象がどのようなメカニズムによって行われているかについて学んでいく。		
到達目標	人体の生理機能に関する知識を習得するとともに、生体の恒常性の維持についてその原理を理解したうえで説明ができる。		
授業時間外の学習	授業の前にテキストの関連ページを通読し、よく理解できない事項を整理して臨むこと。解剖学・生化学・病態生理学などとの関連性を意識して学習すること。常に復習（週に最低60分程度）を心がけ、わからない部分は図書館等で調べたり、教員に質問するなどして理解に努めること。		
履修条件	特になし		
授業計画			
第1回	テーマ：生理学で学ぶこと（生理学とは/生体機構のモデル化）		
第2回	テーマ：消化と吸収の生理(1)（肝臓の機能/胆のうの機能/咀嚼/嚥下）		
第3回	テーマ：消化と吸収の生理(2)（消化管ホルモン/消化液分泌のしくみ/消化・吸収/消化管運動）		
第4回	テーマ：血液の働き(1)（運搬作用/止血作用）		
第5回	テーマ：血液の働き(2)（緩衝作用/生体防御作用）		
第6回	テーマ：心臓の生理（心音/心拍の調節/心電図/刺激伝導系）		
第7回	テーマ：血管の生理（血圧/脈拍/血管運動の調節）		
第8回	テーマ：呼吸の生理（ガス交換/腹式呼吸/胸式呼吸/呼吸運動の調節）		
第9回	テーマ：腎臓の機能（腎小体・尿細管の機能/クリアランス/レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系）		
第10回	テーマ：神経細胞の生理機能（静止電位/活動電位/興奮/伝導と伝達）		
第11回	テーマ：中枢神経系の生理機能（大脳/間脳/脳幹/小脳）		
第12回	テーマ：末梢神経系の生理機能（脳神経/脊髄神経/伝導路/脊髄反射/自律神経）		
第13回	テーマ：ホルモンの機能（各種内分泌器官とホルモンの作用）		
第14回	テーマ：運動器の機能（造血、骨の成長とリモデリング、筋収縮のしくみ）		
第15回	テーマ：生殖の生理（生理周期/視床下部/脳下垂体前葉/生殖腺刺激ホルモン/卵巣ホルモン）		
第16回	定期試験		
テキスト	上嶋 繁ほか編：健康・栄養科学シリーズ「解剖生理学」南江堂 2020（解剖学と共通テキスト）		
参考文献・資料	講義の中で適宜紹介する。		
成績評価の方法	出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。定期試験（70%）、小テスト・レポート・受講態度（30%）により評価する。		
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	毎週の授業終了時		
受講生に望むこと・受講のルール	毎回の出席カードで質問を受け付けるので、その疑問点・理解できない点は遠慮なく質問すること。授業には積極的な姿勢で臨んでほしい。講義回数のおよそ3分の1を超えて欠席した場合は、期末試験の受験資格を失うので注意のこと。		